

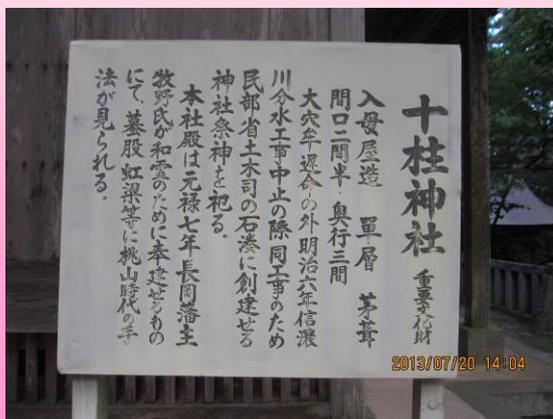
私のおすすめスポット 会員 斎藤 麗（燕市在住）

皆さん弥彦神社に一度は行ったことありますよね！ 神社の境内の中に大河津分水に関する神社があるのを知っていましたか？

明治3年第1期大河津分水工事の起工式が腰巻山の頂上の石湊神社で行われました。起工式の為わざわざ土地を均し神社を造ったのです。（この工事にかかる意気込みを感じます）

しかし、諸事情で工事は中止されてしまいました。それにより神社の祭神も県令の指令に従い、弥彦神社へ合祀することになりました。十祭神を祀っているので十柱神社といい重要文化財となっています。（渡部武男著郷土の史より）

弥彦神社を参拝する機会がありましたら是非十柱神社まで足を運び、先人が大河津分水にかけた思いを感じ取ってみたいはいかがでしょうか。



弥彦神社本殿に続く石段の手前右側より入る。入母屋造りの苔むしたかやぶき屋根が印象的でした。

第3回新潟県博物館等友の会サミット開催

6月29日（土）、津南町農と縄文体験学習館「なじょもん」を会場に、第3回友の会サミットが開催され、濱田副理事長他3名が参加しました。新潟県内にある博物館等友の会が、交流と情報交換を目的に平成21年に第1回目を開催、今回で3回目となります。竪穴式住居を模した建物を会場に、各会の現状や将来について語り合い、とりまとめたサミット宣言を濱田副理事長が読み上げ、未来に向け連携して取り組むことを約して閉会しました。構成員は阿賀市立吉田東伍記念博物館友の会・十日町市博物館友の会・新潟県立歴史博物館友の会・津南町なじょもん友の会・信濃川大河津資料館友の会・石油の世界館友の会の6者。（事務局）



サミット宣言

1. われわれはグローバル化（世界の同一規格）の風潮に立ち向かい、私たちの地域が持つ、地理的、歴史的、文化的、社会的希少性を守り、文化の結晶たる博物館・美術館を通じて地域の魅力を発信していきます。
2. われわれは博物館・美術館に対し「連携」「協同」「共助」「助言」「諫言」「参画」できる関係を模索し、館職員と共に博物館・美術館のみならず、地域文化の振興を図っていきます。
3. われわれは友の会のあるべき姿を目指し、引き続き会員という仲間を増やし、活発な活動を展開していきます。
4. 友の会の活動は、参画するスタッフの自己犠牲によってのみ成り立つようではいずれ行き詰まってしまう。あるべき活動とは博物館・美術館や会員にとって有益であるだけでなく、役員等のスタッフにとっても有意義でやりがいのある持続可能な活動を目指します。
5. 新潟県博物館等友の会連絡会は全国的に同様の連合体がほぼ存在していないことから、友の会という日本の文化的一側面のリーディングケースであると自負している。友の会等の文化的施設の支援外郭団体という共通の基盤にたつわれわれは連携・連絡を密にし、共通の課題解決、相乗的イベントの開催などの取り組みを今後も継続していく。

理事長だより～典生のつづやき～

撤去式と慰霊式

NPO 法人の理事長とはどこまで偉いのか、なんて思う人もいるかもしれない。私もこれで、もう一つの NPO 法人、水環境技術研究会、の理事長でもある。その経験を重ねて言えば、偉いから理事長ではない。むしろ、偉い人すなわち理事長、という考え方は間違っているのかもしれない。

それはともかく、NPO 法人の理事長ならば、NPO でない会の会長より社会の”認知度“が高いというのは本当らしい。それを実感する出来事がこの 1 年間で 2 回あった。しかしその体験は会員の皆様と共に分け合うべきなのだ、と思いここに書き留めるのである。

その 1 つは平成 24 年 8 月 11 日に開催された“大河津分水旧可動堰撤去式”への出席である。この催しは大河津分水改修促進期成同盟会をはじめとして、信濃川河川事務所、そしてわが友の会も共催団体として開催された。当日は旧可動堰のそばにテントをはり、その中でまず挨拶が何人かから述べられた。そのメンバーは、国土交通省北陸地方整備局長、期成同盟会代表としての新潟市長、自治体代表としての燕市長、それに NPO 法人信濃川大河津資料館友の会である。何を述べるべきか迷った私は、通り一遍の挨拶にはするまいとして演壇に立った。最初に私たちの友の会とはどういう団体で会員はみな大河津分水の熱烈なファンであること、その思いは会員だけでなく、住民みんなの思いであること、を述べた後、その心で可動堰を見る時に私達は“3 つの涙で可動堰にお別れします”。と言葉を進めた。すなわち、80 年休み無く働いてくれた旧可動堰への感謝の涙であり、その旧可動堰とお別れする涙であり、最後にそれに代わる新可動堰が立派に働いている事への感謝の涙である、と結んだ。そして旧可動堰の方を向き「ありがとう」で挨拶を終えた。会員の皆さんの心を少しでも代弁できたかと思った一時であった。

年が改まって平成 25 年 4 月 21 日、大河津分水工事で尊い命を落とした方々の霊を祭ってある慰霊碑の袂で、その霊を慰める毎年恒例の行事慰霊式が行われ、これに初めて招かれた。当日は雨のそば降る肌寒い日であった。参列者は狭いテントの中に肩をつぼめて集まった。大正 13 年に第 1 回が行われ、その後次第に毎年行われるようになり今年は 78 回目だという。第 1 回目の時は 84 名が祭られ、その後の犠牲者も加えて、100 名が祭られているのだそうである。式は簡単であった。国土交通省北陸地方整備局長の挨拶の後、来賓として新潟市長、三条市長、燕市長の挨拶があった。その後は出席者による献花である。国会議員を始め、県、市の要人たち、と続く。主催者である信濃川河川事務所大河津出張所長の小幡淳さんの落ち着いた声に呼ばれて、一人ひとり献花を続ける。その最後の方に「NPO 法人信濃川大河津資料館友の会理事長」の声がやっと読み上げられる。係りの方から花を受け取り献花の礼をとって拝礼し、座に下がる。雨の音、小幡さんの声、他には何も音はしない。静寂の世界である。式が終わってからテントの外に出て、慰霊碑に近寄ってみる。大きくはない、単純な碑だが良い碑であった。



イベント案内

東日本大震災被災地視察・・・事前学習会

県外バスツアーの事前学習会を開催します。当会会員で、ツアー案内役の山崎さんから、現地映像を交えた「被災地の今」についてお話しただくと共に視察行程などについて確認します。

ツアー参加者以外の聴講、歓迎です。(事業部)

日時：平成 25 年 8 月 31 日(土)10:15～12:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

講師：長岡震災アーカイブセンター 研究員 山崎麻里子さん

特別上映会 同日 13:00～15:10

石巻門脇小学校の震災当日とその後を追った映画「津波のあとの時間割」(124 分)を上映します。参加自由です。

※参加希望者は事務局までお申し込みください。

第 2 回ガイド研修を行います

今年度第 2 回目のガイド研修を行います。新たに導入されるタブレット端末による展示物ガイドシステムについて説明します。業務担当者は極力参加して下さい。担当者以外の聴講、歓迎です。(事務局)

日時：平成 25 年 8 月 31 日(土)8:30～10:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

講師：信濃川大河津資料館友の会 清水 保さん

※参加者は事務局までお申し込みください。

サケまつり&信濃川教養講座を開催します

恒例のサケまつりを開催します。手作りのサケ汁とコシヒカリおにぎりで信濃川の恵みに感謝。あわせて東日本大震災でも発生した地盤の液状化について学びます。ご家族お友達と一緒にどうぞ。(事業部)

サケまつり ～信濃川の恵みを味わいましょう～

日時：平成 25 年 10 月 5 日(土)11:00～13:00

場所：大河津資料館玄関前(参加自由、飛入り歓迎)

※分水町づくり協議会の可動堰見学会一行も参加予定

信濃川教養講座 ～私たちの地域の液状化～

新潟地震や東日本大震災で発生した地盤の液状化について、実例や発生メカニズムをわかりやすく解説していただくと共に、公表された私たちの地域の「液状化しやすさマップ」について学びます。

日時：平成 25 年 10 月 5 日(土)13:00～15:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

講師：応用地質(株)新潟支店 参事 小野寺 功さん

映写会 ～東日本大震災関係映像～

引き続き、東日本大震災関係の映写会を行います。

日時：平成 25 年 10 月 5 日(土)15:00～16:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

※参加自由です

※参加希望者は事務局までお申し込みください。

大河津分水講演会 2013 を開催します

日時：平成 25 年 10 月 27 日（日）14:30～16:50
場所：新潟市中央区メディアシップ 日報ホール
講師：関 克己氏（元国土交通省水管理・国土保全局長）
演題：「東日本大震災、近年の豪雨災害の教訓に学ぶ」
※資料館から往復バスを用意。希望者は連絡を。

スタッフ募集

本講演会当日のスタッフを募集します。お手伝い頂ける方は 9 月末日までに、事務局へお知らせ下さい。

庭木剪定とクリーン作戦を行います

ゴミ拾い班、庭木剪定班に分かれて資料館周辺をきれいに！終了後にささやかな慰労会を予定しています。手持ちの道具を持参して下さい。（支援部）
日時：平成 25 年 11 月 9 日（土）14:00～17:00
場所：大河津資料館敷地内
※参加希望者は事務局までお申込みください。

県内河川探訪 参加者募集

～西蒲原の乾田化への歩みと大河津分水～

西川・新川だけではなく河川の立体交差など、改めて西蒲原の河川を巡ります。知っているようで知らなかった！西蒲原土地改良区様、越後新川まちおこしの会様のレクチャーを受け、銘酒「鶴の友」の酒蔵を巡ります。（事業部）

日時：平成 25 年 11 月 2 日（土）9:00～17:00
参加費：3,000 円程度（予定）
行程（予定）

大川津ふれあいセンター発（9:00）～矢川・大通川放水路立体交差～西蒲原土地改良区事業展示室（鑑湯）～昼食（内野）～新川まるごと博物館（新川河口排水機場、西川・新川立体交差）～樋木酒造（内野：鶴の友）見学～大川津ふれあいセンター着（17:00）

※参加希望者は事務局までお申し込みください。

第 1 回ガイド研修・避難消火訓練を実施しました

6 月 2 2 日（土）8:30～12:00 参加者：9 名
資料館管理補助業務のガイド研修と避難消火訓練を行いました。将来の分水路改修について、河川整備計画原案ではどのように記載されているか学んだ後、ガイド日誌の書き方について実例を基に意見交換しました。続いて 5 名の分水消防署員の指導で、館内の防火設備と避難ルートの現地確認、消火訓練を実施しました。館内警報が鳴り止まないハプニングに実際に対処するなど、実り多い訓練となりました。（支援部）



避難ルートの確認



水消火器による消火訓練

庭木剪定で明るくすっきり

6 月 2 2 日（土）13:00～15:00 参加者：7 名
ガイド研修同日の午後、資料館周辺の庭木の剪定に大汗を流しました。最初に取りかかったのは、無線鉄塔フェンス沿い。植栽以来手付かず伸び放題のサザンカに思い切ってハサミを入れました。見事に明るくすっきり。風通しも良くなり、木々たちもみなさんの頑張りにきっと応えてくれるでしょう。（支援部）



河川文化講演会を開催しました

7 月 6 日（日）14:00～16:00 参加者：22 名
「越後平野の気になる地理」－平野の形成過程と土地利用について：縄文時代から現在まで－と題して新潟大学教育学部准教授の小野映介さんにご講演いただきました。新潟市南区味方では地表面下 19m に 4,700 年前の縄文遺跡が発見された。褶曲活動によって今年 3mm 沈降。河川氾濫による堆積と沈下を繰り返し縄文以降の遺跡が埋もれている。村が出来ては沈んだ歴史について、とても考えさせられました。（事業部）



講師の小野映介さん

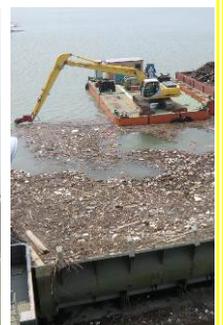


可動堰工事現場見学会を実施しました

8 月 1 0 日（土）10:00～12:00 参加者：21 名
真夏の暑い中、遺構としての保存整備が完了した旧可動堰、全長繋がった新可動堰管理橋を見学しました。新管理橋は工事関係者以外では渡り初めとのこと。最後に操作室を見学し、最終回となる友の会可動堰工事現場見学会を終了しました。新可動堰で見た流木、ゴミ処理作業や 24 時間体制の操作と、維持管理は大変ですが、引き続き越後平野の安全に尽くしてくれるものと期待します。案内いただいた田澤計画課長様、大井建設監督官様、ありがとうございました。（事業部）



旧可動堰にて



ゴミ処理作業



団体会員 ご紹介 我ら大河津分水応援隊！

おかげさまで 88 年

株式会社 氏田組

私は、株式会社氏田組の代表取締役の氏田公基でございます。当社の創業は大正 14 年 10 月で、私の祖父氏田万三郎が、個人で土木工事を始めました。今年創業 88 年の米寿を迎えます。その後、昭和 26 年に株式会社に改組し、土木・建築・砂利砕石製造販売・不動産業と拡大し、地域の皆様と共に歩み、地域に貢献してきた会社です。現在は、公共工事の他に民間建築や住宅のリフォーム部門も積極的に受注を広げて、総合建設業として県央地区を中心に営業エリアを広げております。

初代の氏田万三郎は、昭和 13 年に新潟県より 2 代目の大河津橋を受注し、戦時中の物資の乏しい中で 4 年の歳月をかけて昭和 16 年に完成させたと聞いています。特に建設資材の確保が難しく、セメント・鉄筋は国・県からの支給で賄われ、完成した橋は、トラスの橋梁で大変美しかったそうです。今はその橋も解体され 3 代目の大河津橋が国道 116 号線の幹線道路として後を継いでいます。当社はその後、当時の建設省信濃川工事事務所の仕事を、昭和 40 年代から大河津分水関連の工事（護岸・魚道・床留め・道路舗装等）を多々受注させていただき大変有難うございました。

昔の信濃川は洪水の連続で、3 年か 4 年に 1 回は堤防が切れて、泥田と化し収穫もゼロとなり、越後の人々は貧乏で困難な生活でした。明治 29 年のいわゆる『横田切れ』を契機として世紀の大事業の工事が再開され、この工事の完成により、現在の豊かな災害の無い越後平野になりました。大河津分水の役割、その重要さの認識度がだんだんと薄れていくような時代となり、先人の技術者達の「足跡」及び「志」を次の世代に語りついで行かなければと思っています。その意味で、この資料館の意義を皆さんに認識してほしい。信濃川大河津資料館の益々の発展を期待します。

大河津分水と共に

株式会社 丸栄

初めまして、我々は生まれた時からこの地に生かしてもらっている、照明器具の組立てなどを行う小さな小さな会社でございます。この会の発展と共に我々も会社も発展していきたいと考えております。よろしくお願い致します。

「洗堰」「可動堰」の改修も終わり、今後の予定は大河津分水路の改修と聞いております。まだまだ数千億円の投資が必要といわれております。新潟県、信濃川沿線、地元にとって大河津分水の重要性は十分認識しております。

私の会社は、横田切れ公園の近くにあります。大河津分水の必要性、重要性を身を以て感じている会社でもあります。現在では八王寺、地藏堂堤防線の舗装も終わり、車の通行量も増えております。横田切れ公園、記念碑も皆様の目にふれる様になり、大変喜んでおります。大河津分水、横田切れがますます多くの人々に知られますことを希望します。今後の活水対策の普及に、あるいは大河津分水の一日も早い完成を願っております。

最後に NPO 法人信濃川大河津資料館友の会の役員の皆様には大変ご苦勞をお掛けしております。郷土を守り、国の為、ますますのご活躍を期待し、お祈り申し上げます。私共も協力させていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

先人の功績を後世に伝えよう

株式会社 越佐観光バス

友の会様には日頃より弊社バスをご利用いただき、誠にありがとうございます。

弊社は、平成 2 年に越佐旅行、平成 7 年に越佐観光バスを開業しました。旅行業につきましては、国内旅行はもとより海外旅行も取り扱っております。特にアジア方面は得意中の得意です。観光バスは伊勢や四国方面にも行きますし、燕市や弥彦村の巡回バスも運行しています。信濃川源流の甲武信岳（こぶしだけ）視察等、友の会様には過去に何度もご利用いただいております。

信濃川は日本で一番長い川であり、昔「横田切れ」の大洪水では新潟市内や分水は大変な被害に遭いました。有志地域の方々のただならぬ努力と、大勢の方々の理解のおかげで今日の平穏な川になっていると思います。

源八新田に今も残り、丘陵になっている当時の掘削時の盛土は、現代の人々にはほとんど知られていないのではないのでしょうか。分水の可動堰や河川敷、その周りも立派になった今、当時の資料など後世に残せるものを集めて、会員の皆様から地域に発信して一緒に故人を偲び、感謝していければと思っています。

思いやりの欠けている現代だからこそ、水源から河口までの写真や記事を、川の日（7月7日）や水の日（8月1日）にはもっと PR することが大切ではないでしょうか。

◀編集後記▶ 私の経験した大河津慰霊祭を思い出しながら理事長だよりを読みました。当時は文字通り御霊を慰める「祭」。勿論直会もありました。神式の祭礼が厳かに進む。静粛の中、旧洗堰から流れる水音だけは絶えませんでした。いつの頃からか宗教色を排除した「式」となり、平成 12 年には洗堰の流れも切り替わりました。音の風景とでも言うのか、変わったのだなと今更ながら思いました。(n)

〈事務局連絡先〉

〒959-0123 燕市大川津 1215-7

TEL 090-2673-6596(事務局長)、090-1996-1256(事務局)、FAX 0256-97-3682

e-mail ohkouzu_tomonokai@yahoo.co.jp

https://www.facebook.com/ohkouzuTOMO/